

筑波大学 社会工学系 藤重研究室&山本研究室

のどかな田園風景の広がる道をひとしきり車で走り抜けると、突如目の前に、ビルの建ち並ぶ人工都市が出現します。茨城県つくば市。人口は13万人。「筑波研究学園都市」の名を持つつくば市は、その名のとおり、官民の研究施設が数多く集まっています。また、緑豊かな筑波山を持つ観光都市でもあり、自然と科学が一体となった都市なのです。その中に筑波大学があります。緑に恵まれた広大なキャンパスの中で、私たち藤重研&山本研のメンバーは伸び伸びと研究しています。(研究の成果も延び延びと…?)

藤重先生と山本先生が関係しているものは、(学部に対応する)学類では第3学群社会工学類、大学院では博士課程社会工学研究科です。学類・研究科ともさまざまな分野の講義が開講されています。また、藤重研究室に所属している学生は3名、山本研究室に所属している学生は2名で、いずれも社会工学研究科に所属しています(1988年10月現在)。その中の1人、竹原均さんが、昨年の秋日本OR学会の第6回学生論文賞を受賞しました。また、藤重研究室に所属していた崔文田さんは今年の夏(藤重研究室では初めて)博士号を取り中国に戻られました。そして現在でも、2名の中国人留学生が研究に取り組んでいます。

さて、研究内容ですが、数理計画のさまざまな分野の研究を行なっています。例をあげますと、藤重研究室では線形計画法、2次計画法、グラフ、ネットワーク、マトロイド、劣モジュラ・システム、アルゴリズム、組合せ最適化、資源配分問題等です。また、山本研究室では主に均衡点問題についての研究に取り組んでいます。均衡点問題は、ことあるごとに、山本先生が色鮮やかなOHPを用いて紹介されているので、記憶に残っている方もいることと思います。原則として、各人が互いにあまり重複しないテーマに取り組んでおり、月2~4回開かれる輪講で、各人がテーマおよびその成果を紹介しあっています。また、藤重研究室、山本研究室合同で輪読形

式のゼミも行なっています。

今年の夏から秋にかけて多数の数理計画の研究者がつくばを訪れました。オランダの巨人2人組、G. van der Laan氏、D. Talman氏、西ドイツのU. Zimmermann氏、ハンガリーのT. Terlaky氏、Gy. Sonnevend氏、アメリカのR. M. Freund氏、チェコのS. Poljak氏、ベトナムのH. Tuy氏、イギリスのW. Forster氏ら数多くの海外の研究者がすばらしい講演を行ないました。その中で特にForster氏は約2カ月つくばに滞在し自らの研究成果を発表するだけでなく、日本語学習の成果としてトポロジー的には正しい漢字を披露してくれました。

私たちの研究室は歴史が浅く小規模な研究室ですが、そのぶん学生、先生方との関係は密接で、昼食をとにもすることも多く、週1回お茶の会と称し雑談に花を咲かせます。くつろいだ雰囲気の中で、活字の上、教壇の上では伺い知れないような一面を見出すこともあります。厳しい研究の中にも暖かな人間関係が根づいた研究室となっています。

【藤重先生の横顔】 研究熱心な先生です。また、ソフトボール、テニス、ボーリング等の腕もなかなかのもの。面倒見もよく、温厚でとてもシャイな先生です。口癖は、「どおっ。進んでる?」(もちろん研究のこと)、「自明だね」(学生のレベルでは自明じゃないっ!)等。毎年学生を自宅に招いて夕食会を行なってくれます。

【山本先生の横顔】 本誌Vol.33, No.7の“山本芳嗣さんのプロフィール”(室田一雄氏記)を読んでいただければ、まさにそのとおりです。ただし、掲載された写真はいささか不機嫌な表情をされていますが、実際はもっと“和顔悦色”、そして私たち学生にとってはいつも“良師益友”です。先出の巨人2人組がつくばを訪れ、ジュニアフライ級の山本先生は久々の再会を喜び、彼らとのDiscussionでますます研究への情熱に燃えています。

(関谷、内藤)